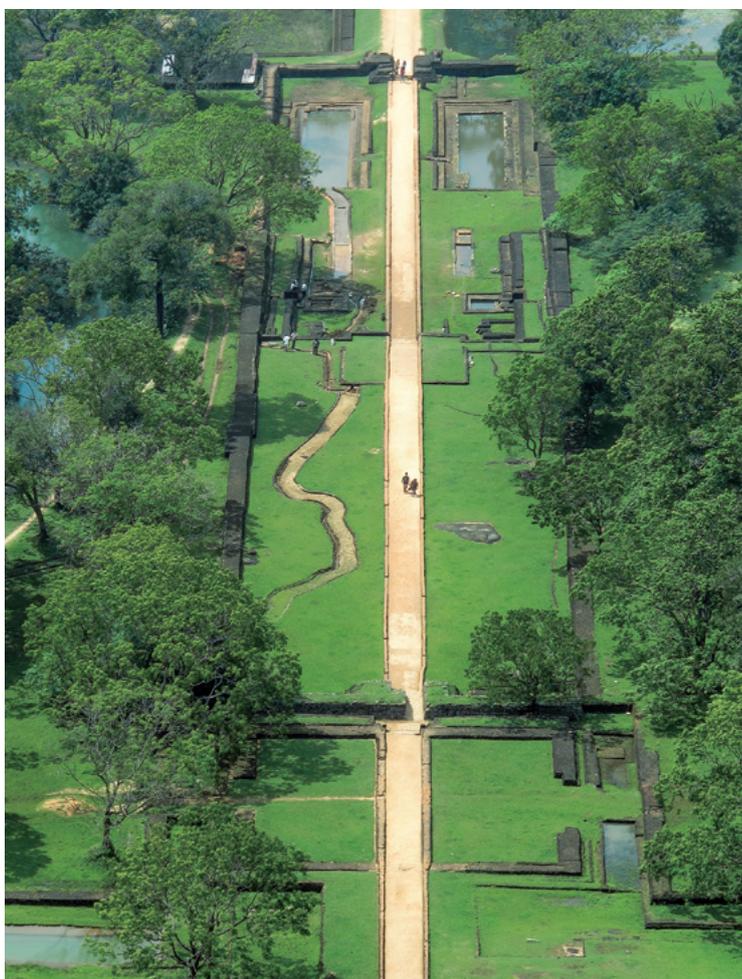




西トップ遺跡南祠堂の解体

2012年度は南祠堂の解体修復をおこなっている。現在躯体部と上成基壇を解体し仮組を終えた。下成基壇内部の土を発掘した結果、中央祠堂の南階段が発見され、中央祠堂が単体で存在していた時期のあったことがあきらかになるとともに、南祠堂との時期差が明確となった。南から。 本文7頁参照（撮影：井上直夫）



スリランカ・シギリヤ遺跡

シギリヤ遺跡は、5世紀第4四半期に造営された宮殿および都市の遺跡。玉座はシギリヤ・ロックと呼ばれる巨大な岩塊の頂上に置かれた。宮殿地区西部には東西に延びる中央通路が設けられ、その両側には多様な水景園が展開する。写真は、発掘調査後に整備された宮殿地区西部をシギリヤ・ロック頂上から見たもの。 本文34頁参照（撮影：小野健吉）



比叡山延暦寺の建築調査

延暦寺横川の四季講堂の内陣。承応元年（1652）に御水尾天皇の御願によって再興された。柱の金欄卷、内法長押の雲紋や龍、小壁や天井格間に描かれた孔雀・鳳凰など、華麗な構成である。

本文 18 頁参照（撮影：杉本和樹）

兵庫県近代和風建築総合調査

明治 30 年（1897）成立の古社寺保存法に基づく文化財建造物の修理に携わった技師らが手がけた建築には、過去の建築様式が巧みに組み込まれた。中崎公会堂は、東大寺大仏殿の修理工事に携わった技師・加護谷祐太郎が、奈良県公会堂を範として設計した。車寄せの柱は角柱にも関わらずエンタシスをもち、袖切りを持つ虹梁や板葺股は鎌倉時代風、また木鼻は大仏様の線形を持つ。時代を横断した様式の折衷をみせている。

本文 26 頁参照（撮影：杉本和樹）



内山永久寺の扁額

地元の天理市の旧家の所蔵。宝治元年（1247）に弘誓院流の祖の藤原教家が筆を執り、永久寺の真言堂に掲げられた扁額だと推定できた。額縁は剥落が進むが、黒漆塗りに上に白・緑・赤色等で華やかに宝相華を描いていた。額面は白色を塗り直している。永久寺は、明治初年に廃絶した。しかし扁額のみは寺院を象徴するものとして、地元で保管されたのだろう。

本文 12 頁参照（撮影：中村一郎）



松ヶ迫矢谷遺跡出土ガラス小玉

(D 地点方形周溝墓 MS 2)

昭和 52 年に実施された広島県三次市東酒屋町の松ヶ迫矢谷遺跡の発掘調査において、方形周溝墓からガラス小玉 3 点が出土している。このたび、これらのガラス小玉について製作技法の推定および化学組成の非破壊分析を実施した。写真左は分析 No. 2（落射光）。写真右は分析 No. 1 の孔内の拡大画像（透過光）。

本文 70 頁参照（撮影：田村朋美）



図版 4



藤原宮朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 174 次）

朝堂院の礎敷広場と、その下層で掘立柱建物群を検出。写真右手では礎敷を除去し、下層建物群の柱穴が見えている。写真左手奥の断割では、木屑溜り S U 11122 を確認した。手前は第 163・169 次調査区。北西から。

本文 86 頁参照（撮影：栗山雅夫）

藤原宮東方官衙北地区の調査（飛鳥藤原第 175 次）

東方官衙の区画塀と、その中に建つ長大な掘立柱東西棟建物を検出した（写真手前）。また区画塀の南側には、礎石建物（右奥）が建つ空間があることを確認した。礎石建物は、掘立柱建物からなる東方官衙地区では初見となる。北から。

本文 97 頁参照（撮影：栗山雅夫）



甘樫丘東麓遺跡の調査

(飛鳥藤原第 171 次)

甘樫丘の南東に開く谷入り口部付近を調査した。丘陵裾部（写真奥）は大規模な削平を受けていたが、谷部（写真手前）の斜面では、7世紀前半～中頃に平坦面を造成しており、被熱して硬化した面や、赤色化した面が残っていた。これらは窯、炉などの一部である可能性が考えられる。南西から。

本文 112 頁参照（撮影：井上直夫）



硬化面 SX202・233・234 の状況

被熱して硬化した面を 3 ヲ所で検出した。残りの良いものは長さ 5 m、幅 2 m 程度で、灰色、赤褐色、橙褐色を呈し、上面はわずかに傾斜する。窯の床面や地下構造の一部とも考えられるが、性格は不明である。北東から。本文 113 頁参照（撮影：栗山雅夫）



方形遺構 SX241・242・243 の状況

一辺 80 cm 程度の不整形方形を呈する遺構を 3 基検出した。上面に粘土と礫を敷くものや、被熱して赤色化した部分が認められるものがある。高熱を発する施設の地下部分か。北から。

本文 115 頁参照（撮影：井上直夫）



図版 6



平城京左京三条一坊一坪の調査

(平城第 488 次)

朱雀門の南東に位置し、朱雀大路に面する平城京左京三条一坊一坪の中央部分の調査。一坪を南北に二分する坪内道路の両側溝と、坪内道路設置以前の建物群などを検出した。南東から。

本文 153 頁参照 (撮影：栗山雅夫)



平城京左京三条一坊一坪の調査

(平城第 491 次)

第 488 次調査で検出した大型掘立柱建物群の南妻を確認し、それらの規模を確定した。また建物群が柱筋をそろえて計画的に造営されていること、それらより南には顕著な遺構が少なく空閑地のような様相を呈していたこともあきらかとなった。南東から。

本文 153 頁参照 (撮影：栗山雅夫)

柱筋をそろえる大型建物群

調査区北半 (写真左半) に、大型掘立柱建物群が柱筋をそろえて造営されている。西から。

本文 153 頁参照 (撮影：栗山雅夫)





平城京左京三条一坊一・二坪の調査 (平城第 495 次)

朱雀門の南東部分で鉄鍛冶工房 1 棟を検出した。左京三条一坊一坪では奈良時代前半に合計 4 棟の鉄鍛冶工房が営まれていたことがあきらかとなった。南から。本文 161 頁参照 (撮影：中村一郎)

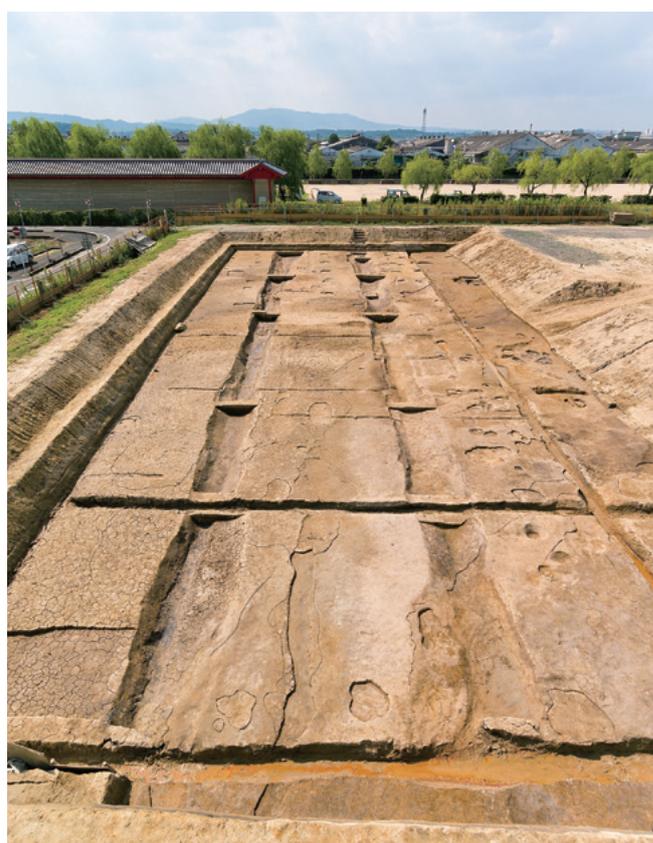
三条条間北小路 SF9670 と
南北両側溝 SD9671・9672

一坪南辺には築地塀がなく、二坪北辺には築地塀が存在したとみられる。奥には復元された朱雀大路と築地塀がみえる。東から。

本文 155 頁参照 (撮影：中村一郎)

鉄鍛冶工房 SX10100 の炉跡

炉跡 SL10125。防湿のため、土坑を掘り窪め礫を据え付けた上に炉を構築する。東から。本文 163 頁参照 (撮影：中村一郎)



図版 8



薬師寺食堂の調査（平成第500次）

食堂は桁行11間、梁行4間、基壇の規模は東西41.1m南北21.6mと、発掘された食堂遺構の中では最大規模を誇ることがあきらかになった。北西から。

本文185頁参照（撮影：中村一郎）

食堂南面の基壇外装と階段、石敷、雨落溝

基壇南面では凝灰岩製の基壇外装や階段、石敷、石組雨落溝を良好な遺存状態で検出し、食堂周辺の様相を知る手がかりが得られた。東から。本文189頁参照（撮影：栗山雅夫）

食堂基壇中央部の版築層

基壇は整地土の上から版築技法を用いて築成する。版築層は中央部ほど細かく、縁辺部へいくにつれ粗くなる。北から。本文187頁参照（撮影：中村一郎）

